

ナツキョ

TOPICS

学生が社会参画する機会を共に創出する

ボランティア支援総合センター

特集

育て！
理数大好き先生



奈良教育大学
イメージキャラクター
「なっきょん」

夏
2009



育て！

理数大好き先生

—理数教育プログラムの実践的取り組みを中心に—

feature articles

「理科離れ」とか「理数離れ」とか言われ出してから、どれだけの年月が経ったのでしょうか。10年？20年？その間、どれだけ多くの理数離れ対策の取り組みがなされたでしょうか？しかし、状況は抜本的には変わっていないどころか、ますます悪化しているように感じます。本学は、教員の養成を目的とした大学です。従って、理数離れ対策として取るべきスタンスは明確です。優れた理数科の教員を養成することです。「育て！理数大好き先生」です。

平成16年度、理科教育講座・数学教育講座に所属する30代・40代の有志教員が中心になって、大きなうねりを起こし始めました。「先導理数プロジェクト」の始動です。一年の準備期間を経て平成17年4月から実施され、小・中学校の理数に強い教員の養成を目指しています。理科・数学（算数）は積み上げの科目であり、当然理数に強い高校教員の養成が求められます。そこで構想されたのが、地域の高校と強

先導理数、融合理数GP



理数教育研究センター長
松山 豊樹

力に連携した理数科高校教員の養成プログラムです。出前授業や大学訪問といった一過的な連携の枠を越え、高校と大学が日常的に「融合する」ことを目指したプログラムは、平成18年度文部科学省「資質の高い教員養成GP」に採択され、「融合理数GPプロジェクト」として、平成18年10月から開始されました。（GPは、Good Practiceの略称）

こうして奈良県北部に、奈良教育大学を中心として地域と強固に連結した小・中学校、高校、そして本学教員養成へと、一貫して連なる教育システムが構築されました。以下では、本教育プログラムの大きな特徴である、優れた教育実践力の形成を目指した取り組みを概観します。

曾爾サテライト

我々は、先導理数プロジェクトを開始した平成17年度の3月に、奈良県宇陀郡曾爾村を訪れました。当初は、曾爾中学校で大学教員が中学生に授業を行うことから始めました。それが、初回の「チャレンジ！サイエンス・イン・曾爾」でした。この授業をやってみて、大学教員の口々から、曾爾中学校の生徒たちの授業を受ける姿勢のひたむきさや、知見を得ようとする純真さへの感動が漏れこぼれました。全校生徒数が50名弱の山村の中学校。そこには、

3【特集】

育て！理数大好き先生

理数教育研究センター長 松山 豊樹

6【大学の取り組み】

教員免許状更新講習の本格実施へ

奈良教育大学教員免許状更新講習運営委員会

8【ラボ・レター】

算数なら教えられる？

数学教育講座 准教授 近藤 裕

近藤研究室の紹介

大学院教育学研究科 教科教育専攻 1回生 中本 智啓

ヒトの動きのメカニズムを知る

保健体育講座 准教授 立 正伸

運動学研究室に魅了されて

学校教育教員養成課程 身体・表現コース 4回生 手塚 翔太郎

10【ひと・あれ・これ】

子どもと歩む

奈良県立奈良西養護学校 大川 政美

転職を経験して

株式会社イーリバースドットコム 大阪営業所 江藤 麻央

11【留学生レポート】

アメリカでの留学生活

総合教育課程 生涯学習コース 4回生 梶原 理沙

日本体験～その最初の3ヶ月

特別聴講学生 ポ・パ・イワナ

12 学生が社会参画する機会を共に創出する ボランティア支援総合センター

ボランティア相談員 小島 道子

名誉教授 梅村 佳代

副学長（研究担当） 佐野 誠

14 吉海直人氏より寄贈の往来物の紹介

15 奈良教育大学出版会とブックレット

16【附属校園では】

幼稚園 異年齢の友達と遊ぶ「こじかの日」

附属幼稚園 副園長 上野 由利子

小学校 地域や家庭とつながる学校給食

附属小学校 栄養教諭 阪口 美香

中学校 ESD佐保川プロジェクトはじまる

附属中学校 第3学年主任 ESD推進室 竹村 景生

18【課外活動】

よりよい大学生活を送るために

女子サッカー部 主将 矢野 琴美

個性を活かす

障害者問題研究サークル すぎのこ 部長 吉川 真依

19【キラリ☆学生紹介】

全国大会で優勝！！選手も驚きの結果に

フットサルチーム 『鹿の子FC』

活躍する奈良教育大生

【大学の仲間たち】

クロアゲハ

自然環境教育センター長 前田 喜四雄

ならやま
2009年夏号

CONTENTS

〈表紙題字〉

名誉教授 池田 桂 鳳

表紙紹介

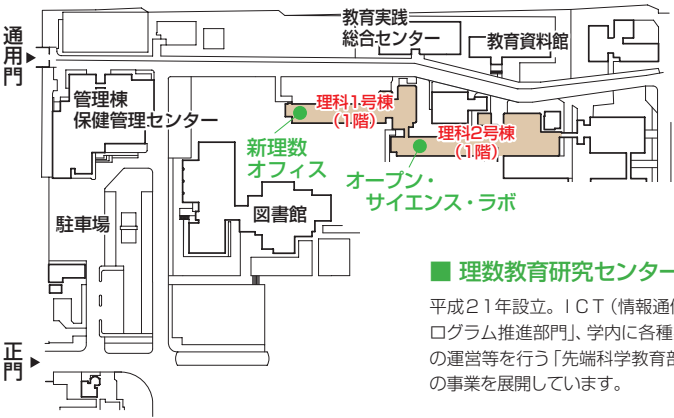
教育資料館の展示遺物は、新薬師寺旧境内の平成20・21年度調査で出土した、奈良時代の新薬師寺創建時（747年）の瓦類を主とする資料で、倒壊を物語る破片が多い。軒丸瓦は二種類あり、一つは唐招提寺と同范であるが、より古い創建の新薬師寺で発見されたことから、新薬師寺用に造られたとみなされる複弁八葉蓮華紋軒丸瓦である。もう一つは、奈良時代の初めに興福寺で使用されたとされる、線鋸歯文を配した范型を用いた複弁八葉蓮華紋軒丸瓦であり、藤原氏との関連を物語る。軒平瓦は、東大寺と同じ范型を用いた均整唐草紋軒平瓦であり、造東大寺司により、東大寺と同時に築造されていたことと関連する。平瓦と丸瓦は、奈良時代の特徴である布目ないし縄目を表面に残し、丸瓦はすべて玉縁を有する。他に大型の塼の破片、平安時代の須恵器小壺と灯明皿片、神功開寶（765）、隆平永寶（796）などがある。

〈解説〉

理科教育講座（文化財科学）
准教授 金原正明

〈教育資料館 開館時間〉

平日 13時～17時
無料（学外者も入場可能）



■ 理数教育研究センター

平成21年設立。ICT（情報通信技術）支援教育開発、地域連携等を行う「教育プログラム推進部門」、学内に各種実験機材を配備したオープン・サイエンス・ラボの運営等を行う「先端科学教育部門」等からなり、理数教育プログラムの開発などの事業を展開しています。



オープン・サイエンス・ラボでの実験風景

を提供していただきました。しかも、単に授業に入るのではなく、授業後に授業担当者を交えた検討会を実施して、その日の授業のポイントを教示してもらうなど、授業力向上の指導をしていただきました。これは、毎週研究授業に参加しているのに等しく、学生の授業実践力を高める上で極めて効果的でした。

奈良北高校では、実験を伴う授業へ入らせていただきました。実験のための準備など、授業の事前準備から現場に入り、授業に至るまでの流れ、授業、授業後の片づけ・処理等、本当に実際に即した活動を行うことができました。

大学側からは、一条高校の授業「課題研究」〔奈良北高校の授業「探求科学」

教育の原点の場を体験することは、学生の教師像の形成の上で、極めて貴重であると思われます。以後、曾爾小・中学校は「曾爾サテライト」として、我々のプロジェクトの重要な柱の一つとなりました。

大和郡山サテライト

我々のプログラムでは、2回生から継続的に都市部の学校教育現場に入っていきます。重要なのは、単発ではなく継続的に教育現場に入ることと、生徒たちの成長過程や日常の教室運営、学校行事の進行を実践的に学ぶことです。

さらに重要なのは、我々のプロジェクトと学校教育現場との信頼関係です。この派遣は、単なるボランティア活動ではなく、体系的な教育プログラムの一環であり、本学と学校教育現場が連携して教員を養成する、という意識を強く共有するよう努力しました。

そのフィールドとして、我々は大和郡山市の小・中学校を選びました。大和郡山市は、以前からさまざまな特色のある教育活動を行っています。大和郡山市の小・中学校は、期待通りにプロジェクト参加学生を受け入れてくれました。理科・数学（算数）はもちろん、小学校では他教科でも対応してもらい、特別支援学級での活動も指導して

への支援を行いました。単発的な連携の枠を超え、大学と高校が一体となった融合事業が実施されました。

オープン・サイエンス・ラボ

オープン・サイエンス・ラボには、原理・法則を意識しながら、興味を持って取り組めるような工夫を凝らした最新の実験機材を備えました。連携校の生徒たちが、年間を通じて何回もオープン・サイエンス・ラボを訪れ、大学教員・教育研究員・大学院生等の指導のもと、目を輝かせて実験に取り組みました。

プロジェクトでは、連携校の現職教員に週二回来ていただき、プログラム参加学生への教材開発の指導を行ってもらいました。さらに、そこで開発された教材の一部は、地域の学校で「スパー・サイエンス」と銘打って、演示実験（サイエンスショー）の形で広く公開されました。これらの活動の拠点の役も、オープン・サイエンス・ラボは果たしました。

そして、新理数へ

「理数教育研究センター」の設立

平成20年度、それまでの成果を継承する「新理数プロジェクト」が開始されました。そして平成20年度末、本学の理数教育プロジェクトを統括する



理数教育研究センター 開所式

拠点「理数教育研究センター」(URL: <http://nesm.nara-edu.ac.jp/>) が設立されました。プロジェクトは、5年目に突入しました。今後は、学外に開かれた理数教育の研究拠点として、より一層発展していくことを目指しています。

最後に、理数力は今後、教員の持つ資質の一つとしてますます重要になります。それだけでなく、一人の人間の生きる力の一つとして理数力は必要です。多くの若人が、本学の理数教育プロジェクトへ集うことを願っています。



サマースクールイン曾爾

我々のフィールドとして、我々は大和郡山市の小・中学校を選びました。大和郡山市は、以前からさまざまな特色のある教育活動を行っています。大和郡山市の小・中学校は、期待通りにプロジェクト参加学生を受け入れてくれました。理科・数学（算数）はもちろん、小学校では他教科でも対応してもらい、特別支援学級での活動も指導して



一条高校の課題研究の様子

いただきました。大和郡山サテライトは、プロジェクトが当初想定した以上の活動実績を残すこととなりました。

一条・奈良北サテライト

高校教育のフィールドとして、奈良市内の理数に特色を待つ二校と連携を行いました。一校は奈良市立一条高校で数理科学科を持っており、もう一校は奈良県立奈良北高校で理数科を持っています。両校ともSPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）等の実績を持ち、理数教育への意識が高い高校です。

特に一条高校には、毎週定期的に学生の受け入れを行ってもらい、プログラム参加学生への高校教育の実践の場

大学の取り組み

教員免許状更新講習の本格実施へ

奈良教育大学教員免許状更新講習運営委員会

1 更新講習の趣旨

教員免許状更新講習は、教員免許状を有する人が、最新の知識や技能を習得し専門性を高め、また、社会状況や学校教育が抱える教育課題、子どもの変化などに適切に対応する力を養うなど、教員としての資質や能力の向上を図ることを目的に実施されます。

講習は、満35歳・45歳・55歳になる教員を対象に行われ、必修領域12時間以上、選択領域18時間以上の2領域計30時間以上を受講し、修了認定を受ける必要があります。免許状の有効期間は10年です。

2 本学の更新講習の特色

奈良教育大学では、奈良県における中核的な教員養成機関として、地元奈良の教員の資質・能力向上に寄与するために、6月から11月にかけて、県内八つの大学や短大、教育機関等々と連携協力を図りながら実施します。

特に、現場の先生方に受講機会を多く提供するために、必修領域は4回の講習機会を、選択領域51講習についても同一内容で、2回から6回の講習機会を設定しました。

講習内容は、幼稚園から特別支援学校までの全教員必修の「教育の最新事情」、選択領域では、校種の位置づけや教科の専門性に適応した知識や課題、対応方法など、知識や技能

の更なる向上を目指した内容になっています。地元奈良の世界遺産や文化財をテーマにした講習や、奈良を舞台にした文学作品、新学習指導要領で導入された小学校英語の意義と活動、特別支援を必要とする子どもへの関わり方など、奈良の特性や学校現場を取り巻く課題といった、受講者のニーズに応える幅広い内容で講習を設定しています。

講習形式はさまざまで、講義や実技実習だけでなく、大学等を離れ、自然豊かな曽爾高原で2泊3日の現地研修を行う講習（小中教員対象）も実施します。

3 受講受付について

本学の受講受付は、Webのみとし、講習の開講時期に合わせて5回の機会を設定しました。各回とも県内の学校に勤務する教員を対象にした先行受付、それ以外の免許状所有者の一般受付と2段階の受付体制とし、受講希望者の便宜を図っています。

尚、受付期間、受付方法、講習時期、講習内容等の詳細については、奈良教育大学のホームページをご覧ください。

4 第1回必修領域講習の様子

6月27日・28日に第1回必修領域講習が行われました。9時から始まった講習では、私

語ひとつない教室で受講生の皆さんは、講師の言葉や説明を聞き逃さないように耳を傾け、メモをとり新しい知識や技能・技術等の修得に意欲的に取り組まれていました。



更新講習の様子



平成21年度 教員免許状更新講習一覧

- | | | | |
|---|------|---|------------|
| 1 | 講習時期 | 平成21年6月27日～11月29日 | 土日及び夏期休業期間 |
| 2 | 講習時間 | 9時～17時（含：修了認定試験、事後アンケート） | |
| 3 | 講習会場 | 奈良教育大学 畿央大学 天理大学 奈良大学 奈良産業大学 大阪樟蔭女子大学 奈良佐保短期大学 奈良保育学院 国立曽爾青少年自然の家 | |

▼必修領域

開設講習名	主な受講対象者	会場
教育の最新事情	全教員	奈良教育大学

▼選択領域

開設講習名	主な受講対象者	会場	
学習活動に生かす心理学	全教員	奈良教育大学	
カウンセリング／キャリア教育／道徳教育			
児童生徒のフィジカルヘルスとメンタルヘルスにおける諸問題			
地域の伝統文化と文化財を活かす教育	全教員（除；養護教諭）	奈良教育大学	
言語文化の多面的考察			
奈良の森と水と動物			
教員の ICT 活用指導力			
世界遺産とユネスコの教育			
特別支援教育の当面する課題 1			
特別支援教育の当面する課題 2	特別支援教育機関教諭	奈良教育大学	
子供の言語活動と絵本（絵本から読書へ～言葉の力を育てる）	幼稚園教諭	大阪樟蔭女子大学（関屋キャンパス）	
保育現場で活用できる IT スキルの向上		奈良佐保短期大学	
幼児の発達と教育		奈良教育大学	
保育内容の充実（表現活動を通して）		奈良保育学院	
初等教科（国語／社会）	小学校教諭	奈良教育大学	
新しい理科や算数の学びを体験しよう			
初等教科（英語／身体表現・生活）			
新教育課程における小学校教育			
小学校における児童の指導のあり方			
教育内容の充実（小学校教諭）			
自然体験学習と学校教育	小中学校教諭	国立曽爾青少年自然の家	
中高国語科の現代文教育内容の充実	中高国語教諭	奈良教育大学	
中高国語科の古典教育内容の充実		奈良大学	
奈良の文学			
コミュニケーションとリーディングの指導における実践と原理	中高英語教諭	奈良教育大学	
認知言語学を基礎とした英語教育の可能性	中高保健体育教諭	奈良教育大学	
スポーツと健康の科学			
学校体育と社会体育			
保健体育科における教科指導			
スポーツのとらえ方と武道（柔道）			
家庭科教育 1	中高家庭教諭	奈良教育大学	
家庭科教育 2	技術・工業教諭	奈良教育大学	
技術・工業教育の現状			
技術・工業教育のこれから	中高数学教諭	奈良教育大学	
数学の大切さ・すばらしさを感じよう			
新しい数学の学びを体験しよう	中高理科教諭	奈良教育大学	
物理・化学分野の理論的・実践的展開と教育について			
生命と地球の科学			
中高理科の指導と教育内容の充実	中高美術教諭	奈良大学	
描画基礎技能の再発見を目指す（塑造を含む）			
美術科教育の今日的課題／構成・デザインの役割と展開			
音楽教育 1		中高音楽教諭	奈良教育大学
音楽教育 2			
書道 1		中高書道教諭	
書道 2			
地理・歴史教育と地理学・歴史学研究		社会・地理歴史教諭	
歴史教育と歴史学－日本史と世界史を中心に－		社会・歴史教諭	
「権利の思想」と実践：起源・受容・展望		社会・公民教諭	
現代社会の諸問題を考える（社会・公民分野から）			
情報の世界とその学びを体験しよう		情報教育関連教諭	
教育内容の充実（中高情報教育関連教諭用）			

算数なら 教えられる？



数学教育講座 准教授
近藤 裕

■ 引っくり返してかければよい？

「算数なら教えられる」という声が聞かれます。他教科はともかく、算数ならば自分にも解き方がわかるし、答えは「つだから教えられる」ということなのでしょう。

たとえば、「分数÷分数」について教えるのに、「引っくり返してかければよい」と覚え込ませて訓練するだけならば、確かに誰にでも簡単にできるでしょう。

しかし、そのような方法で教えられた子どもたちは、算数から何を学び取ることができているでしょうか。意味もわからずに、ただ引っくり返してかけて答えを出す。初めは先生から丸がもらえて嬉しいかも知れませんが、けれども、やがて受験を終え学校を離れた時に、その子に残るものは何でしょうか。

■ 教師の力量

「分数÷分数なんて使わない」と言っても、学ぶことそのものが否定されることすらあります。けれども、実際の教室で子どもたちと共に、具体的な場面をもとにして、 $\frac{1}{2} \div \frac{1}{3}$ について考えてみるとどうでしょう。ここでは、「図にかいて考えてみよう」「もしも

分数ではなくて整数だったらどうか」「友達の考えを聞いてひらめいたぞ！」「わかった！できた！やったー！」等、実にさまざまな姿を子どもたちは見せます。

「なぜ、どうして、引っくり返してかけるのか？」に子どもたちをうまく引き込むことで、「状況を図に表して考える」「複雑な場面を単純化して考える」「みんなで知恵を出して考え合う」「学ぶ喜びを味わう」等、生涯にわたって役立つ経験や力を身につけさせる。ここに学習の意義があります。

こうした授業を展開するのは、決して簡単なことではありません。教師の力量にかかっています。本研究室では、その力量のもととなる「教材」「子ども」「教師の役割」等々に関する理解を深め、実践力を高められるよう、具体的な教材に即して日々研究を進めています。



研究室の様子

学生からのメッセージ

近藤研究室の紹介



大学院教育学研究科
教科教育専攻 1 回生
中本 智啓

■ 数学教育研究室

今年度から、奈良教育大学・数学教育講座に近藤裕先生のゼミが新たに登場します。近藤先生は、小学校教員を経て、平成21年3月まで中学校の数学教員をされていました。

この研究室では、教育現場での話はもちろんのこと、教員を志望する学生にとって、現役教師の立場からアドバイスしてもらえるので、非常に恵まれた環境にあると思います。

ゼミでは、基本的に希望する研究テーマを自分で選択することができ、テーマに沿って調べてきたものを発表します。そして、発表に対して意見やアドバイスをなどをいただきます。研究発表以外にも、最近の教育内容に関する話題も紹介し、皆で討論したり情報交換し

たりしています。

このゼミを通して、教える立場からものを見る、能動的な態度が養われると思います。

■ 数学的表現力

私が行っている研究は、子ども一人一人の表現力の育成、特に中学校と高等学校を中心とした、中高連携における数学的表現力の育成に関する研究です。

というのも、最近の子どもたちを見ていると、「答えは求められるけど解き方を説明できない」というケースが増えてきていると思うからです。数学は、決められた約束事に従って、順を追って説明しながら計算していかないと、正しい答えには辿り着けません。

解き方を説明できない子どもも含めて、教育現場では「解答に至るまでの過程を、しっかりと説明しながら記述できる力を育成する」という教育が必要だと考えます。誰が見ても理解できる、解答に至った考え方がわかるような答案を書かせる指導は簡単ではありませんが、大切なことだと思って取り組んでいます。

ヒトの動きの メカニズムを知る



保健体育講座 准教授
立 正伸

■ 運動学とは

運動学の言葉の意味は「運動に関する学問」です。これは、生物学、生理学、生化学、整形外科学、心理学、バイオメカニクス、運動制御学、体力科学、労働科学などの様々な学問領域が関わりをもった研究領域となっています。当研究室では、この中で、運動生理学、バイオメカニクス、体力科学を研究テーマとし、人間を対象とした実験を行うことによって、人間の運動に見られるさまざまな現象を解明します。それによって、「運動をどのようにやればいいのか?」「どのように体を動かせばいいのか?」といった問題を考えていきます。

■ 競技力強化の現場から

私は本学に着任する以前は、国立スポーツ科学センターにて、一流競技選手の競技力向上を目指し、「体を鍛えるためにはどうすればよいのか?」「より洗練された動きを産み出すためにはどうしたらよいのか?」といったことについて考えてきました。これまでの、私の研究のキーワードには、筋持久力、筋力・パワー測定、高地トレーニング、競泳のレー



立研 ゼミ写真

ス分析、競技動作の映像フィードバック方法開発などがあります。

昨年度からスタートした研究室からは、この3月に早くも4名の卒業生が出ました。その内、1名は大学院へ進学、3名は教員として活躍しています。現在の研究室には、修士課程の学生1名、学部4回生が6名、3回生が5名の総勢12名が在籍していて非常に賑やかです。研究室ではスポーツ・運動と身体の関係、運動学的に理解するため、実際に自分の体を動かして実験を行い、ヒトの動きのメカニズムについて知ることなどを重視しています。学生には、研究室で得られた経験・知識を実際のスポーツ・運動の指導を行う際に役立てて欲しいと願っています。

学生からのメッセージ

運動学研究室に 魅了されて



学校教育教員養成課程
身体表現コース 4 回生
手塚 翔太郎

■ なぜ運動学を選んだのか

保健体育専修では、保健体育科教育や体育学、運動生理学、運動学、学校保健といったさまざまな専門分野を4年間で学ぶことができます。私は陸上競技部に所属していて、日頃から走るのが速い人を見て、自分とどこが違うのだろうと思ったり、どんなトレーニングをすればもっと速く走ることができるのだろう、と疑問を抱いていた中で運動学と出会いました。運動学系の講義はいくつか存在し、自分の筋パワーを測ったり、トレーニング方法を考えたりします。しかし、講義だけでは物足りず、もつと運動学的視点でスポーツを見てみたくなり、この研究室を選

■ 運動学研究室の良さ

運動学研究室では、運動中の動作をハイスピードカメラで分析したり、筋電図で筋肉の動きを見たり、血中乳酸濃度を測り疲労具合を分析したりと、さまざまな実験器具を使って、運動のメカニズムを日々研究しています。難しそうに感じる方もいるかも知れませんが、週に一回勉強会があって、運動学について一から詳しく学ぶことができ、すぐに自分で実験器具を使い分析できるようになります。

自分で分析し始めると、次から次へと新しい疑問が出てきて、走ることにしてももちろん、いろいろな運動のメカニズムについてもっと深く知りたくなり、気づけば運動学の虜となっています。「疑問↓分析↓考察↓疑問」、この繰り返しが運動学の楽しさであり、良いところだと私は思います。実際に陸上競技の面でも、運動学のおかげで非常に充実したものとなり、私は運動学研究室を選んで本当に良かったと思っています。

学生が社会参画する機会を共に創出する

ボランティア支援 総合センター

本学では近隣の教育委員会と学生派遣協定を結び、本学学生をスクールサポーターとして、学校園に派遣しています。しかし、社会福祉やまちづくりといったボランティアに関しては、学生への支援はまだ十分に確立していませんでした。

そこで、平成20年度に「ボランティア支援総合センター」を設置しました。これにより、今まで以上に情報の共有化や支援事業の一元化が図られました。また、相談員などを配置することにより、学生のニーズに合った派遣先の紹介や改善に向けた継続的な取り組みが可能となり、課外教育として学生のボランティア活動の充実に大きく寄与しています。

■学校教育ボランティアについて

奈良市、奈良県、京都府、京都市、堺市、柏原市などと協定を結び、スクールサポートボランティアを派遣しています。平成16年度からはじまり、平成20年度は約200名もの学生が参加している、教育大学という特色を生かした活動です。授業のない時間を有

☆菜の花バイオマスプロジェクト

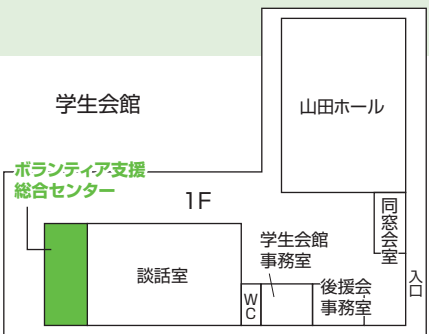
方法があることに驚いています。あなたと一緒に活動しませんか？きっと心が温かくなりますよ。

▼プロジェクトの意義

地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの発生を抑制するために、菜の花を栽培し、収穫した菜種を搾油し家庭で使った後、廃食油をバイオディーゼル燃料に再利用する資源循環型の社会を進めるプロジェクトです。

▼活動内容

通常は種まきから始まりますが、途中参加のため、刈り取り、種のよりわけ作業でした。刈り取った菜の花をブルーシートの上に広げ、足で踏み種を落します。最初は茎が足に刺さって痛いのですが、慣れてくると痛さも気にならず、とても楽しい作業でした。その後、古くからの道具である唐箕を使い、種とカスをよりわけます。きれ



ボランティア支援総合センター

平成20年設立。ボランティア相談員を配置し、学生向けに学校教育ボランティアや、一般ボランティア活動を紹介している。センター内のパソコンでボランティア活動を検索することができる。

効に使うことができ、教員になるための経験を積むことができます。ボランティア支援総合センターでは、週1回相談員が相談ののっています。

■一般ボランティア活動の支援について

社会に出る最終段階である大学でのボランティア活動は、他者のための活動であると同時に、色々な価値観や様々な特性を持った人と接し、感じ、考え、行動し、社会に対する「もののみかた」を作り上げ、自らの人格を磨く場となります。当センターでは、すでに社会的に認知された活動に参加する機会を提供するだけでなく、大学生だからこそ見えてくる、社会の矛盾や問題などを少しでも解決に向けて努力しようとしている学生と共に考え、共に悩み、サポーターするようにしています。そして現在、学生自身が立ち上げたプロジェクトがどんどん増えていっています。その例をいくつか紹介します。

いに種とカスが分別され、昔の人の発想のすごさに感銘を受けました。

▼活動を通して考えたこと

ボランティアを始め、何もかも初めての経験でした。最初は少し緊張していましたが、新しいことに挑戦することと自分を成長させることができました。また、ボランティアには新たな出会いや発見があることを知りました。これからも自分も楽しめ、誰かの助けにもなるボランティアに是非挑戦していきたいと思っています。そして、有意義な時間を過ごし、社会に出た時に生かしていきたいと考えています。

☆なつきょん's cafe

▼活動の目指すもの

この春に、留学生と日本人学生が交流し、異文化理解を深めようとなつきょん's cafe を始めました。本学のイメージキャラクター「なつきょん」から命名したなつきょん's cafe は、日本人学生との交流を求める留学生などの憩いの場にしてもらえればと思っています。現在は留学生と日本人学生合わせて10数名で日本語の会話を楽しみながら、各国の挨拶や言葉を教えあったり、異文化体験や国による文化の違いについて討論するなど、異文化理解にもつながっています。最近の討論内容は「制服は必要か否か」「各国に見る理想の教師像」「世界の麺文化」などです。留学生と友達になりたいと思っている日

☆ペットボトルのキャップ捨てないで！ キャップ回収活動

▼プロジェクトの意義

日本は医療が発達し、薬やワクチンが豊富にあるため、ほとんどの子どもは病気にかかっても生きることができます。しかし、世界には生きたくても、ワクチンを接種するお金がなく、予防可能な感染症で命を落とす子どもがたくさんいます。私たちはそのような子どもの命を少しでも多く救うために「あいふたFromなら」という愛称でキャップ回収活動をしています。

▼活動内容

「エコキャップ」は、誰にでも簡単にでき、小さな積み重ねではありますが、人の優しさがいっぱいこもった素敵なボランティアです。大学、公共施設、保育所などの協力により、ペットボトルのふたを回収し、売却益を「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄贈し、ユニセフを通じてワクチンを世界の子どもたちに贈っています。ポリオワクチン1人分を贈るには800個のキャップが必要ですが、たくさんボランティアのお陰で、今まで30人の子どもにポリオワクチンを提供することができました。また、キャップを焼却しないことにより二酸化炭素を削減するこ



とができ、環境にもやさしい活動です。

▼活動を通して考えたこと

大学に入学してから今まで、自分自身の事でいっぱいになっていて、周りの事に気を配る余裕がありませんでした。しかし、このボランティア活動を通して、世界の現状を知るきっかけとなり、視野が広がりました。今までにも、様々なボランティアをしてきましたが、募金活動をして発展途上国の子どもにお金を送っていました。しかし、このエコキャップ運動では直接お金を集めるのではなく、キャップを集めることによって人を助けることができることを知りました。様々な支援の

本人学生にとってもいい機会だと思います。毎回いろいろな国の留学生が参加するので、学内での交流を深めることができます。また、どの留学生も流暢に日本語を話すので、すぐ友達になれます！
色々な文化と触れ合えるなつきょん's cafe に是非、足を運んでみてください。

■今後取り組みたいプロジェクト

▼長期入院の子どもに生の音楽を

ホスピタルコンサートという、入院している子どもたちの前で演奏する計画を立てています。入院している子どもたちは外出ができないので生演奏を聴く機会がないと聞き、そんな子どもたちのために何かできないかと思ったのがきっかけでした。音楽の素晴らしさを感じるのには、生の演奏を見て、聴いた時だと思っています。音楽っておもしろいな、すごいなと私が小さい頃に感じたように、自分からそのような機会を持つことができない子どもたちにも感じてほしく、また、子どもたちの癒しの機会となればと思います。まだまだ計画段階ですが、必ず実現できるようこれから頑張っていきたいと思っています。

■ボランティアに

参加したことがない方へ

ボランティアを一度でも良いから経験してみてください。活動することによって見えてくるものがあったり、自



教育学部2回生
大道 康弘



教育学部3回生
吉田 悠一



教育学部3回生
大谷 志保



教育学部1回生
折戸 大輔



教育学部2回生
郷原 晴香



教育学部3回生
土岐 知嘉子



教育学部3回生
米田 明弘



ボランティア相談員
小島 道子

分が楽しめたり、人からは感謝されたり、しんどいけれど満足感が得られたり、授業やアルバイトでは得られない気づきがあります。自分に合ったボランティアを一緒に探してみませんか。

学生
ボランティア
スタッフ

吉海直人氏より寄贈の 往来物の紹介



名誉教授

梅村 佳代

このたび、2009年2月から3月にかけて、同志社女子大学教授・吉海直人氏より、近世の書物である往来物165点ほどが本学に寄贈されました。段ボール箱にして三箱分にもなります。

吉海氏は国文学者で、百人一首のご研究の著書も発刊され、広く近世書物を蒐集してこられました。その蒐集の分野として、百人一首を往来物化した「女子用往来」は、すでに900余点ほども蒐集されています。近世の子どもの文字稽古や、読み本としての単語、地理、歴史、教訓、実業などの往来物も蒐集されていたのを、今回本学に寄贈していただきました。

貴重な近世初期の往来物

寄贈された往来物165点ほどの内容は、各ジャンルに及ぶ貴重な内容です。往来物研究は、教育史研究者の石川謙・石川松太郎の二代にわたるライフワークがあります。それらの分類に基づいて検討すると、多岐にわたる内容であると共に、近世前

期に発刊された貴重な往来物も多く含まれています。また往来物として代表的とされ、よく知られている内容の書物も蒐集されています。

また、往来物ではありませんが、テキストとしてよく使われた書物も多く含まれています。発刊年代が近世前期のものを挙げれば、居初氏女「女書翰初学抄」上下（元禄三年正月刊 小佐治半右衛門板）、堀流水軒「庭訓往来」（元禄七年七月）、「御成敗式目」（慶安四年三月 敦賀屋久兵衛開板）、「庭訓往来」（正保二年四月）、「新刻かな付庭訓往来全」（明暦四年二月）、「初登山手習教訓書」（寛永二年六月）、笹山梅庵「手習仕用集下」（元禄六年）などがあり、これだけでも貴重さがわかります。近世の女性書家で、女筆手本などにより名を知られた居初つな、近世で最もよく読まれた「商売往来」の著者である堀流水軒が初期に著わした往来物なども含まれています。中世社会に作成された、古往来の代表的な「庭訓往来」も比較的多く蒐集されています。

幅広く蒐集された 近世中後期の往来物

寺子屋（手習塾）の一般的普及は近世中後期とされ、往来物の発刊も多量になっており、その中でも中期の往来物が多く見られます。「仮名付新版商売往来 全」（宝暦六年刊村田次郎兵衛新板）、貝原先生述「女大学」（明和七年九月）、下河邊拾水「庭訓往来」（明和九年正月 京都菱屋治兵衛板）、大坂書肆作成「寺子入木抄」（安永十三年三月 吉文字屋市兵衛板）、「女用躰今川」（享保三年十二月）など、享保、宝暦、明和、寛政期頃の女大学、用文章などの消息類や、女子用往来、書札類などが多く蒐集されています。

また、近世後期のものとしては、「女大学教箱」（天保十四年七月）などの女子の教訓類や「御家流平仮名付諸職往来」（弘化三年）、「女今川玉苗文庫」（慶応二年四月）など、よく読まれた往来物が多く含まれています。

明治期の往来物も蒐集されています。岡本賢蔵編次「修身女訓」（明治十五年九月）、「小学女用文章」（明治二十五年二月）などがあります。全体として、女子用往来、散らし書きや用文章などの手紙文や消息類の手本、近世中後期に流布していた著名な往来物などが蒐集されています。

近年は近世の書物研究が活発であり、近世社会のメディアとしての書物、文字学習や読書のための往来物や書物の研究を通して、近世民衆の識字力の検討も深められています。



小学女用文章（明治二十五年二月）と女用文章初音錦

修身女訓（明治十五年九月）

女用躰今川（享保三年十二月）

奈良教育大学出版会と ブックレット



副学長（研究担当） 佐野 誠

昨春秋に奈良教育大学出版会が設立され、ブックレット二冊が刊行されました。その記念すべき第一号は、本学美術教育講座の元教授・梶田幸恵先生の『手作り絵本の楽しさ』です。それに続く第二号は、本学音楽教育講座の教授・安田寛先生の『日本の唱歌と太平洋の讃美歌』です。前者は、「誰でも簡単に楽しく作ることができる絵本」をキャッチフレーズに、絵本の作り方を懇切丁寧に説明されています。後者は、「唱歌誕生はなぜ奇跡だったのか」を副題に、唱歌と讃美歌の意外な関係を対話形式で解き明かしてくれています。両者ともに平易な文で書かれているので、一気に読み通すことができます。最初の数ページにカラーの口絵があり、文中には数多くの図や写真が挿入されています。これらを眺めるだけでも有益で勉強になります。装丁も美しいので、一度手に取ってみてください。必ずや理性と感性の栄養分となることでしょう。

「大学出版会」というと、堅苦しいイメージを持つ方がおられるかも知れませんが。難解な学術専門書を公刊している大学出版会が多いのも事実です。しかし本出版会は、学生や一般読者向けのブックレットを公刊することを目的に設立された学内組織です。2007（平成19）年度に、長友恒人先生を委員長とする学術研究推進委員会の学長裁量経費によって、ブックレットの公刊が認められました。当初は、執筆者の選定や出版に当たったの税制上の問題もあったのですが、事務担当の方々のご尽力もあり、何とか公刊に漕ぎつけることができました。

本ブックレットの重要な使命は、研究と

教育と社会の相互連携を実現し、「開かれた大学」という一般社会の要請に応えることです。「大学の教員は、専門の研究に相当な時間を費やすばかりで、それを社会に還元していないのではないか？」という批判がここ数年繰り返されてきました。ひと昔前には「象牙の塔」に閉じこもり、社会と断絶している大学」などと陰口をたたかれたこともありましたが。本ブックレットは、このような批判に応えるべく公刊されたと言っても過言ではありません。高校生にも理解可能な内容を目指していることも、この精神の表れです。

出版会の運営は、「奈良教育大学出版会運営委員会」が中心になって行っています。現在は構成員四名（研究担当副学長・学術研究推進委員会委員・会計課長・学術情報課長）の小さな委員会ですが、いずれは各講座からの意見が直接反映されるような委員会構成ができればと考えております。ブックレットを年二冊程度出すことが当面の課題です。予算措置によって、学術研究書の企画も可能でしょう。しかし、それは本出版会が軌道に乗ってから話です。出版には予算が付きものなので、まずは安定飛行をしていくことが不可欠です。

いずれにしても、自己の教養とスキルを磨くために、読書会や学習会のために、さらには先生方の授業のためにも、本ブックレットを存分にご利用ください。各号の初版は2千部で、定価は1,000円（税込）です。奈良教育大学の生協以外でも、関西圏のいくつかの書店や一部のネットで購入可能です。京都の東山書房に、発行を引き受けていただいています。

出版物のご紹介

奈良教育大学出版会から出版された書籍をご紹介します。

日本の唱歌と 太平洋の讃美歌

安田 寛 著

本のテーマは、「ぼくらの音楽はどこから来たの？」です。キーワードは、「キリスト教伝道、太平洋、讃美歌、唱歌」。



手作り絵本の楽しさ

梶田 幸恵 著

「誰でも簡単に楽しく作ることができる絵本」をキャッチフレーズに、絵本の作り方を懇切丁寧に解説。



幼稚園 異年齢の友達と遊ぶ 「こじかの日」

附属幼稚園 副園長

上野由利子



週に一度の「こじかの日」

附属幼稚園では、毎週月曜日に異年齢の友達と遊ぶ「こじかの日」を実施しています。園舎の構造上、学年の異なる子ども同士が日常的には関わりにくいこともあり、週に一度、意図的に年齢の違う二人が一緒に過ごす時間を設けています。昨今では、地域でさまざまな年齢の子どもたちが集い群れ遊ぶ姿は、めったに見られなくなりました。そのため、幼稚園の中で年齢が違う関係から生じる思いやりや、それを受ける体験は貴重であると考えています。時には、思うように動いてくれない年少児の対応に悩む年長児や、思い



シロツメクサの指輪を作ってあげるね

をうまく伝えられずにもどかしい気持ちを持つ年少児の姿も見られます。楽しい経験ばかりでなく、このようなうまくいかない体験も、教師に支えられることで、豊かな成長につながります。

ふれあい遊びで仲良し

「こじかの日」は、一緒に遊ぶ友達を見つけないところから始まります。初めて遊ぶ友達もいるので、誘った後に互いの名前を教え合い、歌に合わせて一緒に動いたり、くすぐり合ったりするふれあい遊びを行います。互いに触れ合うことで、緊張した気持ちを和らげ、親しみを持てるようになると考えています。

二人で分けるおやつ時間

おやつも二人で分けて食べるようになっており、二人で一枚の大きなおせんべいや、奇数枚入ったビスケットなど、いつもとは違う「分けるおやつ」を用意します。年長児が主導権を持つことが多いのですが、きつちり同じように分けたり、多い方を小さい友達に譲ったりと、分け方にも工夫が感じられます。

思いやりの連鎖

遊びの時間は二人で相談して進めますが、年長児が小さい友達をブランコに乗せて押してあげたり、草花の飾りを作ってあげたり、あちこちで微笑ましい関わりが見られます。年中少児にとって、やさしくしてもらった体験は心地よく受け止められ、

小学校 地域や家庭とつながる 学校給食

附属小学校 栄養教諭

阪口 美香



本校は、自校献立による単独校方式の給食を週五行っています。児童・教職員約680人の給食を、栄養教諭一名と調理員五名で作っています。給食室からいいにおいがすると、子どもたちから「今日の給食何?」「早く食べたい!」とうれしい声が聞こえます。「安全で豊かな給食を食べることで、子どもたちの心と体を健やかに育てていく」という目標のもとに、給食も教育活動の一つとして取り組んでいます。

顔の見える生産者

食の安全性が脅かされている今日、

がユネスコ学校に参加するとともに、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組む始めて3年になり、今の3年生が「ESD3年生」となります。ESDは単なる「坐学」で終わるものではなく、学んだことを「実践する学」なのです。たとえ中学生の考えであっても、思いを形にしていける社会的な提案にまで高めていきたいと、今回の「佐保川プロジェクト」に取り組むことになりました。

ところで、「持続可能性」とは具体的に何なのでしょう?よく話題になるのは、「環境」や「資源・エネルギー」問題であったり、「平和」の問題であったりします。しかし、これらの学習は、ややもすると通り一辺倒で終わってしまうことがよくあります。

学校の学びから 地域を創造するESDへ

この3年間の学校行事におけるESDの取り組みでは、「地域」または「地域共同体」に残された「もの」や、残していこうと取り組まれていく「こと」に深く学んでいく視点が継続されました。そこで出会ったのが、「宮川流域ルネサンス協議会」のエコミューシアムの取り組みです。昨年度から、協議会の方の協力を得て、地元NPOの方たちの「地域の持続的発展」を願う活動に参加体験させてもらっています。

このルネサンスの活動を支えているのが「流域案内人」です。「地域の暮らしを伝えます」「地域の将来を提言します」「地域の自然・伝統・文化を守ります」「地域の自然と人のかか

翌年、逆の立場になった時に、小さい友達への思いやりの行動として受け継がれていくのです。そして、一年間の「こじかの日」の活動は、仲良しになった友達と共に祝う卒園式で終わることになります。

学校給食も例外ではありません。成長期の子どものために食べる給食だからこそ、「顔の見える生産者」を大切に、おいしく安全な食材の追求をしています。「顔が見える」ということは、どこで誰が作ったかが明らかであり、安心して使用できるといいうことです。

野菜や果物は、奈良県や奈良市産といった、地元の新鮮でおいしいものを積極的に取り入れ、時には給食時間の放送で、生産者の思いを子どもたちに伝えることもしています。生産者の顔が見えると、子どもたちも食材を身近に感じ、感謝の気持ちを持つだけでなく、苦手なものでも食べようとする意欲が見られるようになります。野菜や果物の他にも、

わりを解説します」「地域の産業を解説します」というのが活動のモットーです。私たちの学校教育が、真に「ひとが幸せに生きることとは何か?」について、果たして子どもたちに伝えてきたのか、ESDに取り組むことは、私たちの「教育活動」そのものを問い返す形となりました。

この「佐保川プロジェクト」では、奈良市の里山と里川のつながりを住民はどのように捉え、その環境保全のあり方についてどのように取り組まれているのかを、宮川ルネサンス事業の先進事例に学びながら、自分たちの地元の佐保川で何ができるかを考えてみます。取り組み計画として、左記の内容を考えています。

- ① 佐保川源流探検
- ② 佐保川一斉チェック(水質検査、水辺環境・景観の調査、水辺の遊びの聞き取り調査)
- ③ 佐保川水質保全装置の実験
- ④ 世界遺産を育んだ佐保川(大和川水系)再生への私たちの提言をまとめる
- ⑤ 佐保川キャラクター「さほりん」製作



佐保川一斉チェック

中学校 ESD佐保川 プロジェクトはじまる

附属中学校第3学年主任 ESD推進室

竹村 景生



牛乳や牛肉、豚肉も県内産のもの、醤油や豆腐も市内の業者から手作りのものを納入しています。給食は食べるだけではなく、農作物に関わる人とのつながりを、子どもたちに学んでもらう場でもあると考えています。そして、食べることの大切さと何をどう食べるのかを、給食を通して学んで欲しいと思います。また、給食の食材から教科との関連



産地見学(市内のいちご農家)の様子

家庭との連携

学校保健委員会では、給食の納入業者との話し合いや産地見学、食に関する講演会などを行い、保護者と共に食について学んでいます。産地見学では、給食で使用している市内のいちご農家に行き、直接生産者から話を聞く機会を持っています。牛乳を大手のメーカーから市内の植村牧場に替える提案をした際は、広く保護者に見学を呼びかけ、保護者の意見も聞きながら実現に至りました。また、学校保健委員会から提案された献立を、給食に取り入れることもあります。その他にも、給食試食会などで食に関する意識を高め、理解や協力を得ています。

これからも、地域や家庭と連携を行いながら、子どもたちの食について考えていきたいと思っています。

3年間の附属中学校での学びの積み上げから、自らが関心を持つテーマを定め、探求的に一つの論文として仕上げるとともに、その成果をみんな

思いを形に

女子サッカー部

よりよい大学生活を送るために



主将 矢野 琴美

私たち女子サッカー部は、1年生4人・2年生7人・3年生5人とマネージャー2人、コーチ2人で活動しています。ほとんど全員初心者なので、先輩・後輩とても仲が良く、お互いに教え合いながら、月・水・木・土と週に四回練習に励んでいます。公式戦は主に春リーグと秋リーグで、私たちは今2部ですが、1部昇格を目指して日々頑張っています。リーグ戦ではチームが一つとなつて、一人ひとり上手になくても、チームプレーで勝負しています。試合としては、他に近畿国立大学大会と奈良県リーグがあります。

夏休みには、3泊4日で筑波大学で行われる「筑波フェスティバル」に参加し、全国の女子サッカー部の皆さんと交流しています。1月のセクター試験休みには、男子サッカー部と一緒に3泊4日のクラブスキーに行きます。男子サッカー部の人と関われる良い機会であり、内容とても楽しいので、毎年ほとんどの部員が参加しています。



リーグ戦前 大学にて

が、しんどい練習をみんな乗り越えた時の感動は、今しか感じる事ができないと思います。大学に入ってからで部活かあ…と迷っている人がいれば、私は入部することをオススメします。奈良教育大学は学校の規模が小さいということもあり、部活動に入ること、1年生から4年生まで多くの人と知り合うことができます。毎日練習があるわけではないので、バイトなどとも両立でき、本当に毎日が充実すると思います。特に大学から新しく何かを始めたいなら、女子サッカー部は笑顔でお待ちしています♪

課 外 活 動

障害者問題研究サークル すぎのこ

個性を活かす



部長 吉川 真依

「障害って何？」という質問に、あなたなら何と答えますか？私たちは障害者問題研究サークル「すぎのこ」です。すぎのこでは月に一度定例会を開き、障害を持ったメンバーさんの余暇支援をしています。余暇支援といっても、特別難しいことはしていません。学生は毎回、楽しんでメンバーさんと活動しています。調理や工作はもちろん、お出かけをすることもあります。私がすぎのこを通して考える「障害って何？」の答えについて、少しお話しします。

障害って何？私の答えは「その人が持っている『個性のひとつ』」だということです。ありきたりに聞こえますか？しかし、本当にそう思うのです。私は大学生になるまで、「障害」という言葉を聞くだけで身構えていました。障害を持った人とはどんな風に関わればいいのか、どんな風に話せばいいのか…私は、障害を持った人に接したことがなかったのです。大学に入学したての頃、生活の何もかもが新鮮でしたが、すぎのこで感じる新鮮さはズバ抜けて感動できるものでした。障害を持った人と話すことに、身構えたり怖がったりしていた自分は、どこにも居なかったのです。メンバーさんたちは、パワ



すぎのこ定例会

フルかつフレンドリーでした。メンバーさんたちと触れ合うことで感じた個性の豊かさは、「障害」という文字で表すのは不適切のように思えました。すぎのこという場所は、障害を持ったメンバーさんたちにとって「自分を自然に受け入れてもらえる場所」だそうなんです。私は、個性は周りに受け入れてもらえるからこそ活きるものだと思います。また、個性を活かせる場所を探していくことが、将来につながるのではないのでしょうか？皆さんもぜひ、自分の個性を活かせる場所を探してください。

キラリ☆学生紹介

全国大会で優勝！！ 選手も驚きの結果に

昨年3月に第1回バイトルカップU-23全国フットサル大会ミックスクラスに出場し見事全国制覇を成し遂げ、昨年度学長表彰を獲得したフットサルチーム『鹿の子FC』の選手3人に話を聞いた。



左から・・・山岡敬弘さん（教育学部4年生）、佐川祐樹さん（教育学部3年生）、加納圭祐さん（教育学部3年生）

▼まずは、おめでとうございます。優勝した感想を。
全員…ありがとうございます。
山岡…正直、優勝してしまった…というのが率直な感想です。

▼全国大会で優勝したフットサルのミックス部門とは？
山岡…フットサルはサッカーを室内で楽しめるようにしたミニサッカーで、競技は五人で行います。その中でもミックスは、男女混合で行うフットサルのことで、コート内には常時女子選手を二人以上入れることが条件です。全国優勝した僕らのチームは、大学からサッカーを始めた女子サッカー部員が出場してくれました。

大会は、奈良予選・関西地区予選と進み、そのうち上位2チームが東京での本選決勝に出場できました。ミックスクラス・オープンクラス（男子のみ）併せて全国で300チーム余りが参加して、優勝を目指していたんです。僕らは関西地区決勝で負けて2位で東京に行ったのですが、最後には全国優勝することができました。

▼鹿の子FCはどういったチーム？
山岡…大学サッカー部のOBの方が、フットサルを楽しもうと、サッカー部や女子サッカー部に呼びかけ集まったチームです。大学サッカー部だった僕と佐川君がOBの方の誘いを受け、サークルでフットサルをしていた加納君とこの大会に参加しました。いわば、大学サッカー部とフットサルサークルとの混合チームです。最初は楽しむだけのチームで、全国大会出場決定で慌ててユニホームを作ったくらいで。でも、関西大会・全国大会とステージを上げることに、「ここまで来たら勝つで！」とチー



ム全員の目の色が変わりましたね。
▼全国大会に出場して、何か学んだことなどありましたか？
加納…自分は、大会を通じている人々と出会い、スポーツを通じて触れ合うことにとても感激しました。自分もこんな風に大会を開いて、多くの人にスポーツを楽しんでもらいたいという思いが強くなり、実は、他の大学の学生たちの協力も得て、近くフットサルの大会を開催することになりました。関西のプロフットサルリーグ、Fリーグのチームの協賛も得ることができ、多くの人にまた同じような感動を与えられる大会にすべく、運営準備に忙しい日々を送っています。あの全国大会が僕に与えた影響は、とても大きかったですね。

▼全国大会は、優勝という結果以上に大きな収穫があったそうですね。これからの展望は。
佐川…これからの大会があれば出場して、卒業後もサッカーとフットサルを楽しんでいきたいと思っています。

▼ありがとうございました。これからもチームの仲間とスポーツの喜び、そして出合いを大切に、充実した学生生活を送ってください。

〈活躍する奈良教育大生〉

〇剣道部



平成21年度 四教育大学交流剣道大会
男子個人戦2位
教育学部 3年生 大鳥 亮太



第63回 奈良市民体育大会春季大会
一般男子個人2位入賞
教育学部 2年生 奥田 章人

〇男子ハンドボール部

関西学生ハンドボール春季リーグ戦 6部 優勝

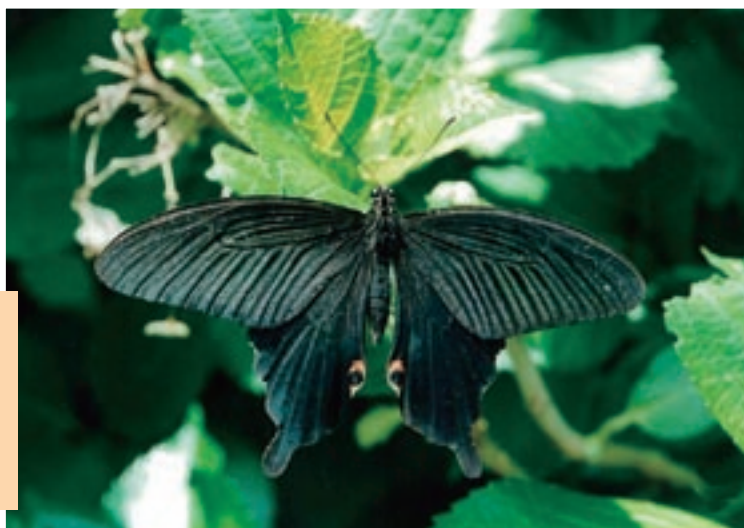
〇論文等



社団法人建設コンサルタンツ協会
2008年度懸賞論文（学生部門）佳作
教育学部 4年生 吉田 勝哉
<http://www.jcca.or.jp/achievement/article/award.html>

大学の仲間たち

和名 クロアゲハ
学名 *Papilio protenor*
分類 アゲハチョウ科
(鱗翅目, 昆虫綱)
翅開長: 100 ~ 120mm



クロアゲハ

大型のチョウで、アゲハチョウの仲間である。構内で最もよく見かける黒いアゲハの仲間である。文字通り黒い翅をもち、後翅の内側の後方に赤い紋が発達する。また、オスのみに後翅表の前縁に白い帯がある。他に似たような黒っぽいアゲハを、構内で三種観察することができる。モンキアゲハは後翅に大きな黄色い紋が目立つので、区別は容易である。ジャコウアゲハは黒っぽいがむしろ薄い褐色系に見える、翅が細長いことで識別できる。ナガサキアゲハは本来南方系のチョウで、かつては本学では見かけなかったが、いわゆる温暖化による分布の拡大のためか、数年前より構内でも見かけるようになった。本種は後翅の後に突出する尾状突起を欠くので、簡単にそれとわかる。本種の幼虫は、ミカン類やカラタチなどのミカン科植物の葉を食べて育つ。構内にはミカン類が植わっているが少なく、構内での繁殖は未確認であるが、大学周辺にはカラタチの垣根がたくさんあり、そういう場所で主に繁殖して、大学内に飛来してくるものと思われる。構内では五月末から六月にかけて、及び七月下旬から九月末にかけてよく見かける。おそらく一年に三回くらい発生するようである。冬眠は蛹で行われる。



自然環境教育センター長
前田喜四雄

URL <http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/index.htm>



奈良教育大学 広報誌

第31号 平成21年7月27日 編集／広報・情報公開委員会 発行／国立大学法人奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL. 0742-27-9104 FAX. 0742-27-9141
<http://www.nara-edu.ac.jp/>

企画・広報室までご意見・ご感想をお寄せ下さい。
お寄せいただいた方の中から抽選で「なっきょんストラップ」を差し上げます。
【奈良教育大学 企画・広報室】 kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp



なっきょん's CLUB

スタッフ募集のお知らせ

広報誌づくりなど、広報活動をしてくれる学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は企画・広報室まで、お気軽にお問い合わせ下さい。